

① 小紅（おべに）の渡し

小紅の由来は、その昔、お紅という女船頭がいたことから名付けられました。現在は生活用や観光としても利用されています。ちなみにこの渡船は県道扱いなので無料で乗船できます。（要予約）



『写真提供～岐阜市』

② 池の上みそぎまつり



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

毎年12月の第2土曜に、忠節橋下流の岐阜市池ノ上町にある葛懸神社で行われる奇祭です。昔から伝わる祭で、応永（おうえい）の大飢饉からは重要な祭となりました。別名「池ノ上裸祭」としても知られるように、はちまきに下帯姿の男たちが、寒風吹きすさぶ長良川に入りみそぎを行います。

③ 全国でも唯一の規模を誇る 長良川の花火



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

1946年から始まり、全国から花火師が集い、その技を競い合います。お勧めポイントは、金華橋のふもとから、見上げたり、岐阜城から見下ろしたり。自然と人間が創る花火とのコントラストを楽しめます。

④ 伝統を育んだ川原町

以前は奥美濃からの重要な物流拠点でした。ぎふのまちの伝統文化はこのまちから育ったといっても過言ではありません。近年は古家を生かしたカフェなど、観光施設としても大注目です。歴史のおいを感じながら散歩すれば、時間を忘れさせてくれます。



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

⑤ 川の灯台 ～鵜飼乗船所～

1300年以上の歴史ある鵜飼は誰もが知っていますが、ここには川の灯台があります。昔は実際に活用されていたそうです。川にも灯台があったんですね。恋人や友人との待ち合わせ場所に、川の灯台はいかがですか。



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

⑥ 長良橋・鵜飼大橋からの サンセットビュー

長良川にはたくさんの橋が架かっていますが、夕日を見るポイントとしては橋の上は最適です。どんな有名な夕日スポットよりも身近にあるこの場所を体験してみましょう。



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

⑦ 鵜の庵 鵜 ～鵜と人の語らい～

鵜匠さんは宮内庁式部職の国家公務員だということをご存知ですか。鵜と触れ合いながら、鮎料理を楽しんだ後、鵜飼舟に乗る・・・一味違った鵜飼見物になること間違いなしです。



⑧ 恋人の聖地 ～長良川プロムナード～

長良川右岸の1.3kmに及ぶ遊歩道です。鵜飼の最後には総がらみと言って、鵜飼船が並んで漁をする景色は、デートスポットにもお勧めです。また長良橋から西へ往復約5kmの、あの金メダリストにちなんで名付けられた尚子ロードも有名です。



『写真提供～岐阜市』

⑨ 川の上で楽しむ～薪能～

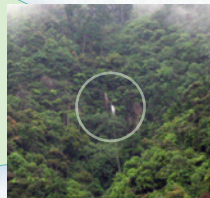
長良川の川原に能の舞台を作り、夏の夜に毎年開催されるのが長良川薪能です。長良川と金華山をバックに、伝統芸能に触れることができます。毎年、豪華出演者の能を無料で堪能できます。



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

⑩ 幻の滝

大雨の日に長良川プロムナードの長良川右岸から、金華山の斜面をじっと見ていると、雨の日にしか出現しない滝が現れます。昔から“鵜の首の滝”といわれ、出現したら増水に注意するようにといわれています。



⑪ 鵜飼観覧船造船所

全て手づくりなので、年間に2艘しか造られません。木造の鵜飼観覧船の本体をつなぐのは手づくりの釘だけです。機械化が進む現在でも、伝統文化を守るためにはこの造船所は大切な存在ですね。先人の技を伝承する現場を是非見てください。名物所長さんの説明も必聴の価値があります！



⑭ 鵜の目鷹の目



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

その昔、岐阜城のある金華山の山麓に織田信長の居館がありました。織田信長は鵜飼や鷹狩りを好んだそうです。鵜や鷹は非常に目がよく、「鵜の目鷹の目」の言葉はここから来ているようです。

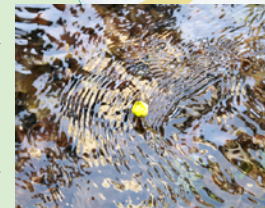
⑮ 長良川ビーチ

さて、長良川ビーチとは、どこでしょう。ビーチといえば海？いえいえ、川にもビーチがあるんですね。バーベキュー、川遊び、家族、友人との楽しい時間を是非、長良川ビーチで楽しんでください。



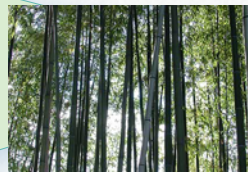
⑯ ヒメコウホネ？

金華山東山麓にある達目洞（だちもくぼら）という場所をご存知でしょうか。そこに絶滅危惧植物のヒメコウホネが咲きます。逆川の水面から黄色いきれいな花を咲かせるこの植物を市民の力で守って行きたいですね。6月頃、コクロオバボタルの乱舞も見られます。



⑰ 久官（きゅうかん）やぶ

昔、代官の久左衛門が洪水の被害に見かねて、川沿いに竹と桑を植えれば、根がはり洪水から農作物が守られると言い伝えたそうです。



⑫ 桜と占い

長良川近くにある護国神社では、鵜飼桜と呼ばれる桜があります。毎年桜の花の付具合で、鵜飼で獲れる鮎の漁獲量を占ったといわれています。



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

⑱ 御料場

年8回御料鵜飼を行い、捕れた鮎を宮内庁に納めています。一般の人は禁漁となっているところで行います。普段は見られませんが、運がよければ千鳥橋の上から見学できるかもしれません。



『写真提供：(社) 岐阜県観光連盟』

⑬ 織田信長に変身できる 歴史博物館



正式には岐阜市歴史博物館ですが、様々な体験コーナーがあります。その中でも織田信長のコスプレが体験できるコーナーはお子様にも大人気です。歴史の勉強をしながら、遊べる体験型の博物館です。



日本一の清流 長良川

1300年の歴史を誇る鵜飼

鵜飼の観客動員数日本一。日本で唯一、宮内庁式部職の鵜匠による鵜飼を間近で見ることができます。平成20年には県重要無形民俗文化財に指定されました。

きれいな水浴場

『長良川』は河川で唯一、「日本の水浴場88選」に選ばれています。夏には、多くの人々が川遊びを楽しんでいる風景が見られます。

都市近郊にありながら豊かな自然

『長良川』という豊かな自然があるぎふ。自然は様々なことを語りかけてくれます。豊かな自然に足を運び、自然の中で感性を磨き、日々の生活にゆとりを感じてみませんか。



『写真提供～岐阜市』



生活と清流との調和



地域住民一人ひとりが『長良川』に関する知識を深め、次世代へ残していく大切な宝としてとらえなければなりません。清流と共生する地域社会を受け継いでいきましょう。

長良川とぎふの魅力

自然、生活、歴史・文化に含まれるぎふのまちの魅力の数々と『長良川』は密接に関係しています。そこに住んでいる人々は『長良川』から受ける恵みを利用し、衣食住の文化を創り上げることで多くの魅力が誕生してきました。時代は流れ、利用方法は変わりながらも、『長良川』との関わりの深さは変わることなく、脈々と続いています。

ぎふのまちの自然 生活 歴史・文化 3つの魅力とは？

きれいな水

柿田川(静岡県)、四万十川(高知県)と並び日本三大清流に数えられています。流域に約85万人の人口を抱えながら、中流域A級の環境基準を満たしています。

BOD値 (75%値)	
全国河川平均	3.1mg/L
長良川(中流域)	0.7mg/L

※BOD(生物化学的酸素要求量)
値が大きいほど水が汚れていることになります

脈々と受け継がれる歴史・文化

『長良川』には鵜飼を初めとして多くの歴史・文化が受け継がれています。長い時間をかけて『長良川』と共に歩んできた歴史・文化を守りながら、育てていなければなりません。まずは素晴らしい歴史・文化を体験してみましょう。



『写真提供～岐阜市』

『長良川』に感謝し、大切に育てる

自分の住んでいるまちに“誇り”を感じる

『長良川』と人とのつながり

『長良川』と人とのつながりは古く、『長良川』付近の日野遺跡では紀元前の石器が発見されています。長良川を動脈として須恵器(すえき)を奈良の都へ輸送したり、漁業としての鵜飼を行い、人々が生活する中で文化を創り上げてきました。近年では自然そのものを楽しむだけでなく、公園やスポーツ施設等が整備され、市民の憩いの場として、また観光スポットとして人々の生活に大きく関わりを持っています。



『写真提供～岐阜市』

『長良川』に人が集まり“ぎふ”で生活した人々の記憶が歴史・文化として受け継がれています。

『長良川』は地域と共に発展してきた『ぎふのまち』の魅力であり、郷土愛を育むシンボルです。

私たちは『長良川』に感謝し、“ぎふ”のまちの宝として、一緒に育てていくことが大切だと考えます。

地元の”ぎふ”再発見！



『写真提供～岐阜市』

ぎふの魅力『長良川』とは・・・

(社)岐阜青年会議所では、地域住民に郷土愛を持ってもらうために誰もが共感できるぎふのまちの魅力を見つけることが大切であると考えました。

『長良川』は金華山と共に、ぎふを代表する天然の魅力であると同時に、ぎふのまちで生活する人々と共に歴史を刻み、文化を育んできた、私たちにとって欠かせないぎふの宝であります。

「ええとこまるけ“長良川”」をご覧いただいた皆様に、ぎふのまちを象徴する魅力がぎふの宝『長良川』であると感じていただければ幸いです。

地域の人々が協働してぎふの宝『長良川』を守り、育てていくことで、郷土愛を育み、地域住民の誰もが誇れる「住んでみたい」「住み続けたい」ぎふのまちを創造していくことを願います。

“ぎふ”とは、岐阜市を中心とした近隣市町村のことをいいます。